

首都圏中央連絡自動車道の早期4車線化について

関東部会提出
説明担当 稲敷市

圏央道は、沿線地域の活性化はもとより、他圏域との交流促進や国内立地企業の国際競争力強化を図る上で必要不可欠な基幹インフラであります。

併せて、今後予想される首都圏直下地震の際に、緊急輸送道路として大きな役目を担う大変重要な路線でもあります。

茨城県では、圏央道沿線地域を含む県全体で、平成25年度から平成28年度の4年連続で工場立地面積が全国第1位となり、平成29年2月26日には県内区間の全線開通を受け、ゴールデンウィークの県内観光客数が過去最高となるなど、県内企業誘致や観光誘客など様々な分野に大きな影響を与えているところであります。

しかしながら、圏央道は現在暫定2車線の整備となっているため、週末には断続的な渋滞区間があり、関東地域の経済活動の進展、高速道路における冗長性の確保及び利用車両の安全安心の確保が急務であります。以上のことから、下記事項について強く要望するものであります。

記

1 首都圏中央連絡自動車道の早期4車線化

- (1) あらゆる手法による速やかな4車線化工事の着手及び早期完成に向け、整備を推進すること。
- (2) 4車線化工事に当たっては、有料道路事業を最大限活用すること。